

# 9月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比D I値の動き

令和5年9月のD I値は8指標中、「販売価格」「取引条件」「設備操業度」「雇用人員」の4指標が上昇し、「景況」「売上高」「収益状況」「資金繰り」の4指標が下落となった。

## 2. 県内中小企業の景況の現状

今月も多くの業種で原材料価格、エネルギーコストの高騰、最低賃金上昇に伴う人件費の増加による影響を指摘する声が聞かれた。出荷量の増加などの回復の報告も見られるが、収益の改善までは至っていない様子が見られ、先行きを不安視する声が多く見られた。また、少子化やペーパーレス化、運転手の高齢化など一企業の努力では解決しがたい問題を抱える事業者もあり中小企業者の経営は厳しさを増している。

そんな中、非製造業からは半数の店舗の売上げが昨年度を上回ったとの報告や、マルシェやドライブインシアター、ワークショップやいす-1GPで賑わったとの報告があった。自動車登録状況においても全ての部門において前年度を上回った月となった。

経済報告では前月同様、県内、全国共に景気は持ち直しているようだ。先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果により緩やかな回復続くことが期待されるが、中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっており、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

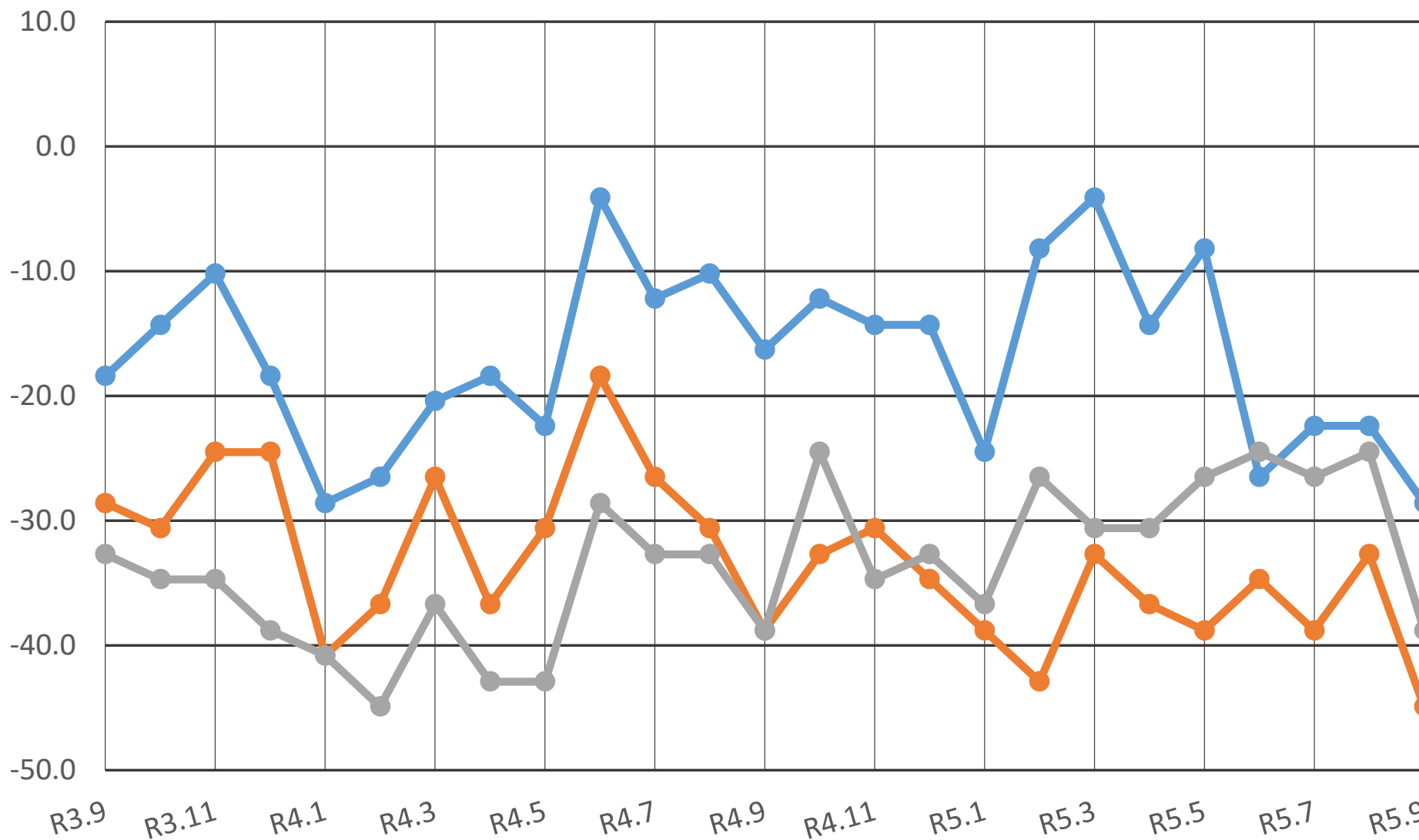
### 最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

	R4 9月	10月	11月	12月	R5 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前月比 増減
景況	-38.8	-24.5	-34.7	-32.7	-36.7	-26.5	-30.6	-30.6	-26.5	-24.5	-26.5	-24.5	-38.8	-14.3
売上高	-16.3	-12.2	-14.3	-14.3	-24.5	-8.2	-4.1	-14.3	-8.2	-26.5	-22.4	-22.4	-28.6	-6.2
収益状況	-38.8	-32.7	-30.6	-34.7	-38.8	-46.9	-32.7	-36.7	-38.8	-34.7	-38.8	-32.7	-44.9	-12.2
販売価格	30.6	24.5	24.5	26.5	18.4	26.5	32.7	36.7	32.7	36.7	30.6	30.6	32.7	2.1
取引条件	-18.4	-16.3	-16.3	-18.4	-18.4	-22.4	-14.3	-10.2	-16.3	-18.4	-10.2	-10.2	-8.2	2.0
資金繰り	-22.4	-10.2	-14.3	-16.3	-16.3	-20.4	-16.3	-18.4	-22.4	-18.4	-20.4	-20.4	-30.6	-10.2
設備操業度	-10.2	-8.2	-6.1	-12.2	-14.3	-14.3	-6.1	-8.2	-12.2	-10.2	-8.2	-8.2	0.0	8.2
雇用人員	-10.2	-6.1	-8.2	-2.0	-10.2	-6.1	-4.1	2.0	-4.1	-2.0	8.2	-2.0	0.0	2.0

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。

# 前年同月比DIの推移

売上高 収益状況 景況



## [景況関連の報告]

### 【製造業】

#### <食料品>

1. 味 噌・前年同月比で味噌の生産量は94.8%、出荷量は116.2%であった。前月比で味噌の生産量は97.5%、出荷量は104.4%であり、出荷量も3ヶ月続けて増加し回復基調となってきた。盆休み等もあり夏場の外食関係が好調であった事によると思われるが、製造コスト高はとまっておらず、当面不安定な状況が続くと考えられる。
2. 漬 物・資材高騰の影響が大きく、利益を大きく圧迫している。外人員は回復しつつあるものの、希望する人員確保（日本人従業員も含む）には至っていない。

#### <繊維・同製品>

3. 縫 製・アパレル業界の課題として、少子化問題があります。少子化はずいぶん前から懸念されている問題ですが、若い世代が少なくなれば、その分働き手も減少すると同時に、消費者のニーズも減退していきます。衣料品は必要不可欠な存在ですが、アパレル業界が目指す「ファッションブルやトレンド」という意味では、若い層をターゲットとしていた為、その層が減っていくとなると需要がなくなる可能性が高くなります。
4. 縫 製・生産数量は受注数に波がある。諸経費も高止まりで、製造原価が上昇している。

#### <木材・木製品>

5. 木 材・業界の落ち込みはひどく、組合員の中には昨年度3割ダウンもある。
6. 製 材・住宅着工が伸び悩む状況が続く製品の動きが悪い。地元工務店向けの需要が減っているのが主要因。他の建築資材は高騰する一方で木材価格は低迷している。関東の大手外材製材の火災の影響で外材価格は踊り場にある模様。川上の素材生産現場もコストアップに悩んでおり、木材市況の低迷が全体に大きく影響している。
7. 木 材・9月についての木材は、8月に引き続き需要量が落ち込んだ模様です。建築資材の高騰がきっかけで、木材流通の回復がなかなか難しいように思われます。

## <印 刷>

8. 印 刷・9月は例年売上の低い月である。10月～11月に開催される秋のイベント関係で巻き返しをしていかなければならない。また、原材料、用紙、エネルギー費と値上げを繰り返している中、比較的価格転嫁が容認されている雰囲気であるが完全に値上げ分を吸収するには、まだまだ時間がかかりそうだ。更に官公庁関係では昨年より安い単価で落札されている物件もあり、印刷物の全体的な仕事量の低下が懸念される。
9. 印 刷・コロナ前の業界では、9月は比較的売上高、収益状況とも好調な月であったが、紙離れの影響もあり低調な月になった。只、全てのお客様ではないが、用紙、副資材等の値上げ要請を了承していただけたお客様のお蔭で、少し売上高は増加したが価格転嫁できていないお客様もあり、またエネルギー関連の価格上昇で収益に関しては厳しい状況下にある。

## <窯業・土石製品>

10. 生 コ ン・9月の出荷量は昨年同月と比べてほぼ横ばい。今年度は4月からずっと出荷量が低迷しているが、依然として出荷量が上向く気配がないばかりか、これまでの官工事の発注状況を見ると今年度はこの先もこの状態がずっと続くような気配である。年間総出荷量の予想は当初の予想より下方修正しなければならない。
11. 生 コ ン・9月の出荷数量は、対前年同月比4%減であった。要因としては、民需において建築資材の高騰により、予算超過が著しく建築計画が見直され、新規着工が減少している。官公需においても、新規着工工事の減少が影響している。工場での収益については価格引上げにも関わらず大幅な出荷数量の減少により経営環境は依然として厳しい。

## <鉄鋼・金属>

12. 鉄 鋼・業況感に大きな変化はなく、概ね横ばいの状況で推移している。原材料やエネルギー価格の高騰及び人件費の増加に伴い、今後もコスト高が続き採算が伸び悩むと予想される。
13. ス テ ン レ ス・国内外ともに大手企業を中心に企業活動は活発化してきている。電子部品等の納期遅れに改善の兆しがあるものの、一部については納期遅れが継続している。また、物価上昇に伴うコストUPの状況が継続しており、先行手配や発注先、発注方法の見直し等の対策を行い対応している。全体的には改善傾向ではあるが、まだまだ先行き不透明感は継続している。

## <一般機器>

14. 機械金属・一部に景況感の持ち直しの動きも見られるものの、原材料費、エネルギーコストの高騰に加え、10月からの最低賃金上昇に伴う労務費増加など、更なる不安定要因により、部品の調達難、受注状況の悪化が懸念され、引き続き、先行きが見通せない不透明な経営環境に大きな変化は見られない。また、需要の停滞をはじめ、従業員の確保難などが、依然として、経営上困難な課題として見受けられる。

## 【非製造業】

### <卸売業>

15. 食糧卸・米不作による原価上昇、経費上昇により利益圧迫。適格な利益第一主義で・・・。

### <小売業>

16. 機械器具・耐久消費材への資金投入が減少し、商品の売行きが著しく悪化している。取引先からの営業活動も増え業界全体が悪い。我々業界内の話では、世界中が同じ動きであり、回復までに3年はかかると見込んでいる様子である。
17. ショッピングセンター・残念ながらあと一歩及ばず、前年対比は売上99.8%、客数99.3%でした。と言いましても4月以前と比べると状況は良くなっています。業種別には、身の回り品が103.6%、食品が102.1%、住居関連が99.4%、衣料品が87.9%と続いています。衣料品が2ヵ月連続で100%を割っています。残暑による秋冬物の買い控えでしょうか。9/16と17の両日、徳島中央会様の紹介で徳島県商工労働観光部の補助金事業に参加しました。昼間は駐車場場で20ブース参加のマルシェ、夜(19時～)は建物壁面に映画を映すドライブインシアターを実施し、たくさんのお客様に来場して頂きました。館内の空きスペースがなくなり、長い間イベントをやっていませんでしたので、イベントの必要性を感じました。
18. 各種商品小売業・売上げに関しては半数のお店が昨年を上回り少しずつ明るい状況へと変化してきている。しかし空き区画、資金繰り問題は依然として深刻な状況が続いている。
19. 畳小売業・9月も後半になると工務店関係の納品が増えた。飲食店などの営業用畳は少なかった。一般家庭は彼岸前に若干畳替えがあった。記録的な暑さの中で涼しくなってからという消費者マインドはあると思う。10月に期待。

### <商店街>

20. 鳴門市・9月は街づくりワークショップや椅子IGPの実行委員会など忙しくさせていただいておりました。10月中に1件空きテナントに店が入る予定です。
21. 徳島市・中心市街地への人出は戻ってきていない。
22. 徳島市・残暑が厳しく秋物の動きが鈍い。

## <サービス業>

23. 自動車整備業・9月度の自動車登録状況の自動車登録状況については、すべての部門において前年度を上回った。中でも、登録車の中古車販売が対前年度比16.7%増、つづいて軽自動車の新車販売が対前年度比13.3%増となり、全体では10.6%増という結果となった。9月の国内新車販売台数に関しては、全国的に見ても前年の同じ月に比べてニケタ増、しかも13カ月連続のプラスとなったそうだが、車載用半導体不足や新型コロナウイルスの影響がなかった4年前の2019年の水準は下回っており、大手を振ってまでは喜ぶこともできないようだ。
24. 土木建築業・前年同月と比べて売上高、業界の景況は変わらず、収益状況は悪化している。設計人数通りでは、担当技術員の欠勤等により、設計人員(日数)をクリア出来なくなる積算上の問題や、業務繁多により仕事量を分散させるため設計人員を追加。河川巡視業務においても、正規技術員数名雇用予定。6月末より別棟での業務を開始し、自社事務所での業務も開始した。自社での作業となるため、来年度から経費率増加が予想される。
25. ビル管理・10月から県内の最低賃金が時間額896円に改定される。ビルメン業界では、生産性の向上を図るとともに、民間および官公庁の需要における対応や価格転嫁対策を徹底し、賃上げの原資確保につながる取り組みを継続的に実施していかなければならない。またエネルギー価格、資材・機材等の価格変動にも注視する必要がある。ホテルや旅館等の宿泊施設では、お盆期間が過ぎた頃から宿泊者数が急激に減少している。ガソリン代の高騰やコロナ・インフルエンザ感染患者が増加したことが考えられる。ホテル業界に限らず、飲食業界やサービス業界においても、コロナ以前の環境に戻るまでには、まだまだ時間が必要である。
26. 旅行業・コロナウイルス感染症が5類に変わった関係で人が動き出しました。徳島県南は旅行会社が少なく、問い合わせ対応に追われる一方、まだまだ団体旅行は動きが少なく、特に高齢者の団体は高齢化や旅行控えて集客がまだまだ厳しい現況です。またインバウンドの関連でホテルなど、手配が難しく、お客様のご要望どおりの工程をごできないこともあります。物価の上昇やコロナ、インフルエンザのまん延などで、今は順調なところでも、この先どうなるのか不安を抱えながらの業務をしています。

## <建設業>

27. 鉄骨・鉄筋工事業・関西圏で来年に向けての動きが見られ加工単価上昇の気配があるものの副資材、メツキの値上がりが続き、運送費も含め見積りに注意が必要。相変わらず県内、地元の見積りが少ない上、4月以降の見通しが全体的に不透明。
28. 建設業・9月の単月では、対前年比の発注件数及び請負額で国は減少している。徳島県及び市町村の工事は、微増している。今年の累計(9月末)では、徳島県発注工事は減少している。
29. 板金工事業・例年通りの状況で、上棟数は安定している。
30. 電気工事業・新築住宅口数は372件で、昨年同月比341.3%となった。

## <運輸業>

31. 貨物運送業・全般に荷動きは上向き傾向に推移。車両はあるのに運転手の高齢化による運転手不足が見られた。一方、燃料単価は政府の補助金もあり、前月平均比で約7円前後の値下がりとなった。
32. 貨物運送業・ここに来て、資金繰りが悪化と解答する事業者の割合が少し増えた。燃料油価格の激変緩和措置は延長されたが、9月は補助金の縮小が影響しさらに、高止まり状態が続いた。目の前にせまった2024年問題において関心は非常に高いが、荷主との運賃、条件交渉はなかなか進んでいない。